



発行のご挨拶

あけましておめでとうございます。令和2年から始まった新型コロナウイルスの感染予防の体制から早3年が経ちます。それに伴い、当協会の活動もオンラインに切り替わっております。コロナ前は日々の悩み事や業務のアイデア・情報を『ちょっと聞いてよ!』とか『これ、知ってるね?』と研修会前後や休憩時間等で参加されている皆様それぞれでお話をされていました。今となっては大変貴重な時間だったなとしみじみ思います。今回より発行する『長崎医療ソーシャルワーク通信』が皆様にとって共感や情報としてお届けできれば幸いです。また、来年行う予定の当協会の70周年記念事業としての九州大会に向けての準備も少しずつ始めてまいります。理事会を中心に取り組んでいきますので会員の皆様におかれましてはご協力の程、何卒よろしくお願いたします。

【治療の現場から事務職に配属されて…】 鍋内

今年度の7月から治療の現場を離れ、事務部門に異動しています。一番大きく違うのはMSWで働いていた時はチーム医療の中で物事を進めていました。自分の考えをチームへ提案して、リーダーたる医師からの承認や指示があれば、スピーディーに動くことができていました。つまり、その場ですぐに動くことができていました。一方、事務部門になると、部署ごとや課長の決済がないと動けません。自分の考えがこれいいな!と書いてもなかなか動かすことが出来ません。上役等の決済がないと動けないためスピード感に欠ける状況です。これが組織を動かす難しさか…と思いつつ、心とこれまでの仕事ぶりを思い返しました。これまでは部署や専門性を横断したコミュニケーションが中心に関わる人達全員が目の前にいる患者さんの状態・状況を分かっていたので、何となくのニュアンスで伝わっていました。しかし、現在は違います。組織として動いていくために、そもそも論から説明する場面もあつたり、なぜ必要なのかということデータを事実に基づいて説明することが求められるようになりました。また、事務職となると教育課程も違うので、わかりやすい表現も用いなければいけません。自分がわかっていることを相手に伝えることの難しさを改めて感じた今日この頃です。これまで患者さんに対して理解が出来るように言葉をかみ砕いたり、表現を変えたりできていたかなと少し反省しました。会員の皆さんも言葉や表現について改めて考えてみませんか?共感した方、ご連絡ください!

【健康福祉プランナー養成塾の紹介】 折原

健康福祉プランナー養成塾は、地域社会振興財団が主催しています。夏に基礎的な知識な習得をする養成塾、秋には幅広い視野と能力を獲得するアドバンスドコースが開催されています。医療や福祉は実践においては地域単位で考え対応していかなければいけません。そのため、地域医療・福祉に従事するに当たっては地方分権や地方行政についてもその知識や資質が求められます。また、地域とのコミュニケーションが取れる人材もキーマンとして求められるようになりました。この養成塾にはMSWの他に医師・看護師・保健師・ケアマネジャー・行政職の方々も参加されており、参加者同士のグループワークや修了後にはメーリングリストでのコミュニケーションも行われてます。何より講師陣が凄いです。自治医科大学出身の医師。地方自治等を専攻している大学の先生、世界的にも有名な講師等々、人材が豊富です。理論・実践方法を学べる。そして、実践にも直結出来ました。

なんとこれが参加費が無料なんです。

ご興味がある方の参加をお勧めします。折原までご一報ください。



地域社会振興財団
健康福祉プランナー養成塾

<https://www.zcssz.or.jp/training/planner/outline.html>

【書籍の紹介：あたりまえの人たち】 米倉

私は読書が趣味なので一冊の本を紹介します。『あたりまえの人たち-昭和のソーシャルワーカーが見た患者と人生 高橋紀子著』この本はMSWである高橋紀子氏が書かれた短編のエッセイ集です。1997年に刊行され、今の時代だからこそ!ということで昨年復刊されたものです。刊行された当時は介護保険もなく、医療の機能分化も進んでいない時代。しかし、ここで書かれているクライアントと向き合う姿や言葉は、便利になった時代だからこそ留めておきたいものだと思います。例えば社会資源の活用についてこのように語っています。『社会資源を多く知っていることが目的になってしまうと、活用することで専門性を発揮した仕事が出来ないように錯覚に陥る。社会資源のフィルターをとおしてクライアントを見ようとするこさえある。』そして、『どの制度に、どのようにあてはまるか、問題を切りとって解決を図ることをソーシャルワークだと思うのなら、コンピューターが進歩している時代だもの、きっと相談自動販売機のようなものができて、ソーシャルワーカーなんていらなくなる。自動販売機のような解答を出すことをソーシャルワークと勘違いしてしまうと自分で自分の首を絞めかねない』と語っています。自身の仕事の在り方を見つめなおすきっかけとなる一冊です。Amazon等で入手できるよう。どうぞお手に取っててください。



←出版元:合同会社ナレッジソース
こちらからも購入できるよう。

<https://ksnetshop.thebase.in/>